

令和元年度
学校法人鶴嶺学園
学校自己評価結果報告書
「日本ヒューマンセレモニー専門学校」

令和2年6月

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン（平成25
年準拠）

1. 学校の教育目標

鶴嶺学園 令和元年度 年度方針

- 1、教育ビジネスの構造改革と実践
- 2、新ビジネスモデルと本部一元化の完成
- 3、広報・セールスの強化と国際化
- 4、脱 18 歳人口を反映した開発と展開
- 5、最新技術の導入と教職員の獲得と啓発

(学校目標)

日本ヒューマンセレモニー専門学校

「礼節を学び 信頼を築き 社会に役立つ」

- ・「礼節を学び」 全ての人々を尊び、礼儀正しさ、挨拶、言葉遣い、身だしなみを習得する。
- ・ 節度のある態度・姿勢の作法を学ぶ。
- ・「信頼を築き」 人間的魅力、人望を養い、信頼を築けば、生涯社会で飛躍することができる。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・サン・ライフとの連携、社内教育、グループ内就職の強化
- ・エンディング教育のカリキュラム化
- ・一般社団、NPO との連携による職業人気の向上への取り組み
- ・卒業生とのリンク・・・ブランド化の推進と学生募集依頼
- ・グループ内就職者交流会設立
- ・ご葬儀分野に関連する ICT（情報通信技術）活用研究・同業他校との差別化、独自性 P R

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(1) 教育理念・目標

| | | |
|---|------------------------------|---|
| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
| ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。(専門分野の特性が明確になっているか) | 4 | 明確に定められており「学生生活ガイド」に記載され、学生、教職員、本学職員関係者すべてが確認できる。 |
| ・学校における職業教育の特色は何か | 4 | 葬祭の現場と連携した教育実習を行い、現場に求められる即戦力を有したスペシャリストを養成する。近隣の葬祭施設、同グループ運営の施設、現場との密接な連携を行っている |
| ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4 | 理事会、評議委員会等で常に学園の将来構想を検討している。 |
| ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 3 | 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについては志望段階のガイダンス、学年ごとの保護者面談等で行っているが、内容理解についての積極的確認は行っていない。 |
| ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか | 4 | 業界が求める人材を育成することが基本であり、そのための演習実習科目を増やし、卒業後即戦力になるような教育を行う。 |

① 課題

職業実践専門課程の認定校として、関係業界の動向や将来性には常に注意を払っているが、学校の将来構想の組み立て及び職業教育の指導方針においては、幅広く業界の動向や将来性をさらに注視し、現実的な業界動向にマッチした新しい業態に対応できるような柔軟さを持つ必要がある。・学校の理念、教育目標等に関する学生、保護者からの特別のクレームはないため、ほぼ理解されていると思われるが、周知に万全を期すことが必要である。

② 今後の改善方策

教育課程編成委員会と学校関係者評価委員会を軸に、さまざまな手段により関連業界との連携をさらに積極的に進めるとともに、幅広く関連する業界の動向と将来性の把握にも努め、より精度の高い将来性の評価能力を開発していく。・学校の理念、教育目標等について、保護者との直接面談、ホームページ等による周知の機会を増やすとともに、学生、保護者アンケート等により、理解度を確認する機会を設ける。

③ 特記事項

| |
|--|
| |
|--|

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(2) 学校運営

| | | |
|---|------------------------------|--|
| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
| ・目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 | 目的、運営方針は「学生生活ガイド」に掲載し教職員、学生ともに把握している。 |
| ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 4 | 年度末に法人理事会・評議会において次年度の事業計画が策定される。また毎年度、学科ごとに教育方針や教育計画が定められる。 |
| ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4 | 運営会議における可決事項のうち、教務関係は各学科長より専任教員に伝わり、事務関係は事務長より事務員へ周知徹底されている。 |
| ・人事、給与に関する規定等は整備されているか | 4 | 整備されている。 また、時代に合わせ変更も行っている。 |
| ・教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 3 | ほぼ整備されている ※学園本部にて実施 |
| ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 3 | インターンシップや見学等で各地の事業者に対しての関わりはあるが、地域社会との関係は薄い |
| ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 4 | カリキュラム、時間割、シラバスは学生に配布。 カリキュラムは学園ホームページにも公表している。 |
| ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 3 | X-point の導入により、業務の効率化はある程度図られている。 |

①課題

学生情報、運営情報の共有、業務効率化のために、学園グループ内での情報システムの整備を進める。

②今後の改善方策

S-wing を活用した情報の蓄積と共有化

X-point 活用による業務の効率化

③ 特記事項

令和2年度はコロナウイルス対応で様々な事項の遅れが懸念される

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(3) 教育活動

| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
|--|------------------------------|---|
| ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 | 高齢化社会、少子化などの社会情勢にあわせた人材を育成するため、方向性については継続的に検討を行っている。 |
| ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 | 知識・技術に関する教育目標は資格試験出題基準を基本レベルとして教育内容を設定している。 人間性に関しては、2年間各学期にわたるグループワークの中で人間性の育成を図っている。 |
| ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。 | 4 | 現状では十分であると考えるが、時代に合わせて柔軟に内容を変えてゆくことが必要である |
| ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか | 3 | 各学科で、実習や講義等を通してキャリア教育・実践的な職業教育の工夫・開発を実施しているが、それらの効果を明確に把握する迄には至っていない |
| ・授業評価の実施・評価体制はあるか。 | 4 | 学生による授業評価を実施している |
| ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。 | 4 | 教育課程編成委員会、講師会議等での指摘のあった事項について精査し、改善に取り組んでいる |
| ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。 | 4 | 全学生配布の「学生生活ガイド」に記載しており、明確になっている |
| ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。 | 4 | 各種資格取得に向け、通常の授業、補講において計画的に対策をおこなっている |
| ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 | 育成カリキュラム達成に備えた教員を必要数確保している。また、教員に必要な専門性、人間性、教授力も備えている。 |
| ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか。 | 4 | 関連業界と接触する場面に於いて、積極的な情報交換等により連携を強化して、関係各校からの推薦、関連業界からの紹介等により人材を確保することに努めている。 |
| ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 3 | 教員個人において専門性を追求すべく研修等への参加を行っているが、その効果を把握検討するまでには至っていない。 |
| ・職員の能力開発のための研修等が行われているか。 | 4 | 各種関連団体の研修会への参加をはじめ、外部講師を招聘し校内での研修も定期的に行っている |

①課題

授業内容や、学生の理解度を把握、評価する体制について検討が必要

②今後の改善方策

教員間での情報共有とともに、積極的に外部研修への参加を行い、質の向上を図ってゆきたい

④ 特記事項

令和2年3月卒業生のディレクター2級合格率 100%

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(4) 学習成果

| | | |
|--|------------------------------|---|
| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
| ・就職率の向上が図られているか | 4 | 2年間を通じた就職指導を計画的に展開できるよう授業、HR,行事、実習等を関連付けた指導を行っている。 |
| ・資格取得率の向上が図られているか | 4 | 学科教員、職員全員による支援体制で取り組んでいる。ディレクター試験の合格率は100%を維持する |
| ・退学率の低減が図られているか | 3 | 課題を抱えた学生への個別対応力強化(保護者との連絡強化、面談回数の増加、学科全体としての対応)、勉学意欲を維持するカリキュラムの見直し、指導法の改善などの対策を講じているが、成果は十分とはいえない。 |
| ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3 | 学生の社会的な活動を把握するよう努めている。一部卒業生の活躍も把握している |
| ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 4 | 同窓会が組織されており、同窓会OBの施設限定の就職セミナーなども開催している |

① 課題

成績不良者への対策や個別のフォローは行っているが、入学時点での基礎学力の問題や、入学後の学習能力の向上についても引き続き取り組んでゆかねばならない。

② 今後の改善方策

定期的な面談や個別指導の状況を学校全体で把握してゆく
実習時などに、卒業生の職場を定期的に訪問し、情報の共有化を学校間で行う
同窓会の活性化

③ 特記事項

昨今の小規模葬儀の流れは一層進むと思われる。少ない運営人数でもお客様に満足していただけるご葬儀が事業者には求められている。そうした現状に即した授業内容を開発する必要がある
また、ディレクター試験の先送りによる影響についても考慮する必要がある

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(5) 学生支援

| | | |
|--|------------------------------|--|
| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
| ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 4 | 求人票のファイリング・掲示板の情報発信などを行っている。担任が中心となり就職担当者と連携して、個別に指導相談に当たっている |
| ・学生相談に関する体制は整備されているか。 | 3 | 主に担任が個別相談を実施している。 |
| ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。 | 4 | 日本学生支援機構奨学金、鶴嶺学園報奨金(理事長奨学金)の制度を取り入れており、有効に機能している |
| ・学生の健康管理を担う体制はあるか。 | 4 | 毎年4月に定期健康診断を行っている。 |
| ・課外活動に対する支援体制は整備されているか。 | 3 | 学生の課外活動に対する支援体制、協力体制は整っているが、ここ数年自主的なサークル活動は行われていない。 |
| ・学生の生活環境への支援は行われているか。 | 3 | 住居の提供は行っていないが、不動産業者等の紹介は行っている。 |
| ・保護者と適切に連携しているか。 | 4 | 成績表は前・後期末に保護者に送付している。成績不良等、課題を抱えている学生については、保護者を含めた三者面談を実施している。 |
| ・卒業生への支援体制はあるか。 | 3 | 同窓会が組織されており、学校と卒業生との窓口になっている、学園全体の同窓会 HP を開設 |
| ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 3 | 国、県からの委託事業への対応を行っている。夜間部への対応は行っていない。 |
| ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 3 | 高校訪問事業などにおいて、職業理解や求められる人物像についての継続的な啓蒙活動を行っている。 |

①課題

同窓会の活性化
経済的な課題を抱えている学生への支援

③ 今後の改善方策

経済的な課題を抱えている学生への学費割引規定作成、運用
保護者との連携
同窓会加入のメリット拡大 セミナーなどの開催

④ 特記事項

| |
|--|
| |
|--|

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(6) 教育環境

| | | |
|--|------------------------------|--|
| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
| ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。 | 4 | 設置基準を十分に満たしている施設・設備である。必要に応じてその都度整備・改修・改善している。 |
| ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 | 3 | 実習に関しては実習施設と事前の指導者会議を実施して、連携した教育の体制を整えている。実習指導者に対しては、学内に於ける教育の取組みを紹介している。海外研修は無い |
| ・防災に対する体制は整備されているか。 | 3 | 防火防災管理規程を定めて体制を示し、防災訓練等を実施している。 防災訓練には学生も参加し、年一回実施している。 |

①課題

昨今の学生のニーズに合わせた施設設備の更新、維持
防災物品の整備充実

⑤ 今後の改善方策

施設設備のメンテナンスなど定期点検を強化し、必要に応じて更新する。
防災物品のさらなる整備充実と更新

③特記事項

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(7) 学生の受け入れ募集

| | | |
|------------------------------|------------------------------|---|
| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
| ・学生募集活動は適切に行われているか | 3 | 事務局により、年間スケジュールを計画的に立案しているものの、定員を満たせていない学科もあるため募集活動の内容には検討の余地がある。 |
| ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 3 | 学園案内や広報資料を毎年更新しているほか、各実績のPR資料を製作し、オープンキャンパスや高校訪問、進学ガイダンス等で最新の情報を提供している。 |
| ・学費・納入金は妥当なものとなっているか | 4 | 同分野の他校と比較し、妥当な額となっている |

①課題

少子化や高校生の大学進学志向、就職状況の向上、業界そのものの不人気などの要因により、高校新卒生の確保が難しくなっている。また中途採用の求人状況も向上していることから既卒者社会人の入学希望者も年々減少している状況である。

②今後の改善方策

学生募集活動において、設置している各学科に関連した業界の魅力や活躍する卒業生の実態などをより広く周知する活動を行い、分野自体の希望者増加に努めていく。また、充実した実習先、就職先や関係団体等との結びつきなどを含め、安定した学校運営を外部にアピールしていく。

③特記事項

エンバーミング学科の開設

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(8) 財務

| | | |
|---------------------------|------------------------------|---|
| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
| ・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 3 | 少子化による学生数の減少と共に収入の減少は不可避ではあるが、その中でも新入生の安定的な確保と、持続的な経費の削減を図ってゆく。 |
| ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 3 | 事業計画に沿った予算編成になっており、おおむね妥当といえる。 |
| ・財務について会計監査が適正に行われているか | 4 | 年間2回、会計監査を行っている |
| ・財務情報公開の体制整備は出来ているか | 4 | 既に学園ホームページ上に公開している |

①課題

少子化に伴う18歳人口（高卒人口）減少による学生数減少

②今後の改善方策

18歳人口に頼らない、社会人の「学びなおし」に対応した講座の開発
資格講座、セミナー等の実施による収益の確保

③特記事項

| |
|--|
| |
|--|

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(9) 法令等の遵守

| | | |
|---------------------------------|------------------------------|--|
| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
| ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 | 4 | 法令、設置基準等に関してはそれらを遵守したうえで、適正な運営がなされている。 |
| ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 | 4 | 個人情報保護に関する法令を遵守するとともに、教職員に対して、遵守事項の確認を行っている。 |
| ・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか | 4 | 毎年、基準に従った自己評価を実施している |
| ・自己評価結果を公開しているか。 | 4 | 既に学園ホームページ上に公表している |

① 課題

個人レベルでのネットワーク上のセキュリティ管理に対する意識の徹底

② 今後の改善方策

教職員に対するセキュリティ教育の継続

③ 特記事項

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(10) 社会貢献・地域貢献

| | | |
|---|------------------------------|---|
| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
| ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 | 3 | 学科別や教員個人レベルでの連携・交流がなされている場合もあるが、学校全体としての試みはない。 |
| ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4 | 施設や、関連団体からのからのボランティア依頼には積極的に対応し、実施時には教職員が学生の引率及び活動支援も行っている。 |
| ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか。 | 4 | 国、県からの業務委託は積極的に受託している。 |

① 課題

地域に貢献する人材を育成するためにも、さらなる地域貢献、社会貢献に努めたい

② 今後の改善方策

様々な団体との連携により、地域貢献、社会貢献の機会を増やしてゆく

③ 特記事項

業界団体との連携（全互協の研修に学生が協力）

今年度についてはコロナウイルス対応により、様々な分野で外部との協力が困難になると思われる

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

(11) 国際交流

| | | |
|---------------------------------------|------------------------------|---------------------|
| 評価項目 | 適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1 | |
| ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。 | 1 | 留学生は現状いない |
| ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。 | 1 | 留学生は現状いない |
| ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。 | 1 | 留学生受け入れの体制整備は十分ではない |
| ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか。 | 1 | 実施せず |

①課題

積極的に留学生を受け入れていない。
学生の日本語能力によっては受け入れの可能性はある。

② 今後の改善方策

現状、積極的に留学生を受け入れていないが、日本語レベルが N2 以上の学生であれば要検討

③ 特記事項

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

施策と年度の実績

1. 一般社団法人や NPO 法人との連携を図りながら新たなカリキュラムの検討
 - ・ NPO 法人、一般社団法人ライフエンディングパートナーズ協会と連携し「ライフエンディングパートナーズ ベーシック資格の取得の継続
新たな資格制度(エンディングビジネスマーケティング)の試験的運用
エンディングビジネスマネジメントの授業にて、最新の葬儀事情を学ぶようにしている
2. サン・ライフグループとの連携強化を図り、学生の意欲向上や実践力の習得、進路実現を図る
 - ・ 実習、インターンシップでの協力を行った。就職においてもグループ企業への就職者があった。
3. 学習環境の充実を図るために、IT 周辺環境の整備やリニューアルを図る
 - ・ 学園全体の IT 環境の再整備を行った。
 - ・ 近年の SNS 炎上問題など、身近なトラブルに対する対処を授業でも触れている
4. エンバーミング技術の認知度向上と効果的な学生募集を推進する
 - ・ IFSA（日本遺体衛生保全協会）との密接な連携を行い、常に情報収集、協力体制は維持できている
5. 卒業生（同窓会）との連携を図り、本校のブランド化や学生募集を推進する
 - ・ 同窓会実施時に勉強会を行う、サンライフグループの保険事業の紹介を行うなど、同窓生であることのメリットを最大限活用してもらえよう、多様な要素を作り出してゆく。
6. エンバーミング学科設立への取り組み

1. 学校の教育目標 令和2年度

鶴嶺学園 2020年度 全体方針

- 1、組織編成と販売方法の再構築
- 2、運営体制・管理体制の強化とスリム化
- 3、外販（企業向け）商品の開発と実用化
- 4、NPOの有効活用
- 5、大規模な開発へのチャレンジ
- 6、施設や設備の充実
- 7、収益事業の拡大と強化

日本ヒューマンセレモニー専門学校

「礼節を学び 信頼を築き 社会に役立つ」

- ・「礼節を学び」 全ての人々を尊び、礼儀正しさ、挨拶、言葉遣い、身だしなみを習得する。
- ・ 節度のある態度・姿勢の作法を学ぶ。
- ・「信頼を築き」 人間的魅力、人望を養い、信頼を築けば、生涯社会で飛躍することができる。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

セレモニー校 「開校20周年のチャレンジ」

- ・ 業界変化（小規模低価格化）に伴うカリキュラム改定
- ・ 学生募集戦略の総合的な再考
- ・ 国内唯一のエンバーミング学科の設立（コースからの移行）
- ・ エンディング分野（企業・施設）への進出 ・ 開校20周年事業の推進
- ・ IFSAとの連携強化（新資格の共同開発・学生募集）